



新治小学校だより

学校教育目標：ひびく心 はすむ体 見つめる目
～新治のよさを持続して活かしながら、
よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和4年度
4月号

令和4年4月7日

3つの力

校長 川島 広子

桜の花も満開の時期を終え、今は舞い散った花びらが地面を淡いピンクに染めています。

新治小学校保護者の皆様、お子様のご入学・ご進級おめでとうございます。

4月から校長を務めることとなりました、川島広子と申します。保土ヶ谷区のろう特別支援学校から参りました、どうぞ宜しくお願いいたします。

3月の終わり、長津田の自宅から新治小学校までどうやって通勤しようかと下見にきました。学校を見たらすぐに帰ろうと思っていたのですが、学校裏の梅田川の美しい流れに誘われ、下に降りたくなり、一本橋めだか広場のほうに歩いてみました。きれいな水がさらさら流れており、この水はどこから流れてくるのかが知りたくなり、さらに川べりを歩いてみました。杉沢堰に行くまでの間の遊歩道では、桜のピンク色と雪柳の白い色が競争するかのようには咲き誇っていました。新治里山公園まで足を延ばし、旧奥津邸にもお邪魔をし、帰る頃にはすっかり新治町に魅了されてしまいました。こんなに素敵な地域で成長する子どもたちに早く会いたいと、ワクワクしています。

さて、4月1日に全教職員にも話したのですが、この場を借りて私の教育に対する思いを書かせていただきます。

それは「社会の中で幸せに生きる子どもたちを育てる」ということです。これは、ろう学校の高等部で大勢の卒業生を送り出した経験から得たものです。「社会の中で幸せに生きる子どもたちを育てる」ためには、子どもたちに身に付けさせたい力が3つあります。

1つ目は、人間関係を作る力です。人は一人では生きていけません。社会の中で良好な人間関係を作る能力があれば周りの人と協働し、幸せに生きていきます。

2つ目は、自分を大切に思う力です。何か1つでいいので自信（強み）となるものがあれば、自己有用感や自尊感情が育ちます。

3つ目は、主体的に考え判断する力です。予測困難な時代を生きる子どもたちが、様々な状況の中で納得解を導き出すためには、自分で考える力が必要です。

しかし、この3つの力は、中学生高校生になって突然身に付くものではなく、小学生の6年間の教育がとても大切です。この大切な時期の子どもたちを保護者の皆様や地域の方々と共に大切に育てたいと思っています。

今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながらの教育活動が続きますが、ご理解とご支援のほど宜しくお願いいたします。また、学校生活についてご不安やご心配なことがありましたら、遠慮なく学校へご相談ください。

